

2019年12月1日

福音書からのメッセージ

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

(マタイによる福音書 24章 42節)

今日から教会は、降臨節に入りました。アドベントという言い方の方が、聞き覚えのある方もおられるかもしれません。降臨節とはイエス様が誕生される降誕日(クリスマス)を待ち望む、そのような期節です。わたしたちは誰かの誕生日をお祝いするとしても、その日を一ヶ月近く前から待ち望むということはあまりないと思います。しかし教会では、アドベントクランツを飾ったり、アドベントカレンダーをめくったりして、その日を楽しみに待ちます。それはなぜなのでしょう。

ここで2000年前に訪れた最初のクリスマスについて、思いを馳せてみましょう。物語の主人公は、マリアという女性でした。彼女は王族でも、お金持ちの娘でもなく、どこにでもいるような女性でした。そんなマリアの元に天使がやってきて、マリアに告げます。「おめでとう、あなたの元に神さまの子どもが生まれます。名前をイエスと名付けなさい」。

マリアは困惑します。なぜならマリアにはヨセフという婚約者がいたものの、正式な結婚はしていなかったからです。そのような状態で妊娠したことが知られると、彼女は不貞の女というレッテルを貼られ、姦淫の罪で石打ちの刑に処せられる可能性すらあったのです。

これだけでも大変な状況です。その後マリアは何とかヨセフに受け入れられますが、住民登録のために通ったベツレヘムでは宿を取ることもできず、結局家畜小屋で、マリアは出産することになりました。

この2000年前の最初のクリスマス、わ



たわたしたちが知っているキラキラしていてワクワクするクリスマスとは、全く違います。悲

しみ、恐れ、不安。暗闇の中で戸惑いながら、神さまの導きによって訪れた出来事。それがイエス様の誕生です。

ではわたしたちにとって、クリスマスにはどういう意味があるのでしょうか。神さまはマリアという女性を用いました。彼女がもし、完璧な人間で、何の過ちも犯さず、神さまの前に正しい人であったならば、わたしたちとは遠く離れた出来事だったことでしょう。神さまはそうではなく、神さまの前に弱く、何度も過ちを犯し、自分勝手に生きている人にも、手を伸ばそうとされました。だから、暗闇の中にいる人たちの間に、イエス様を遣わされたのです。

わたしたちの心の中にも、イエス様をお迎えしましょう。イエス様は、暗く沈んだ心の中にも来てくださいます。明るく整理整頓された心の中にも来てくださいます。ぐちゃぐちゃによどんだ、混沌のような心の中にも来てくださいます。それが神さまのみ心です。どんな人も大切に思ってください、それが神さまです。

この降臨節、イエス様をお迎えするよき準備ができますように。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>